
睡蓮の花

睡蓮堂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

睡蓮の花

【Nコード】

N9970Y

【作者名】

睡蓮堂

【あらすじ】

ある日、ある時、ある瞬間。彼女は原因不明の病でこの世を去り、次に目覚めた時に見たのは褐色の肌に赤い髪をした美しき女神・ユーフェリアだった。

ユーフェリアの力によって彼女・冴木漣は異世界ユーフェリアにある国の一つ、黄昏の国ノクティスへと落とされる。輪廻の輪から外れ、転生の軸から外れた彼女の運命は？

プロローグ

「ここは……………」

眩しい光に誘われ、彼女は瞳を開いた。白い靄のような物が薄らと漂い、目を凝らせどこまでも果てないその空間に、彼女はぼんやりと立ち上がった。

「目が、覚めたようですね……………」

ふと、背後からかけられた優しいげな声音に彼女がゆっくりと振り返ると、そこに立っていたのは、褐色の肌に上品な紅茶色の長い髪の毛^{たお}やかな美女。

「あなたは？」

「私はユーフェリア。あなた方の世界では”女神”と呼ばれているものです……………」

「女神さま…………… ああ、じゃあやっぱり私は死んだんですね」

「…………… いいえ、あなたはまだ、完全に死を迎えた訳ではありません

ん
」

「え？」

酷く悲しげな表情でゆっくりと首を振ったユーフェリア。

「あなたの身体は植物状態、まだ生きています」

「じゃあ、戻れるん——」

「残念ですが今のままでは無理です」

「今のままでは？」

訝しげに首を傾けた彼女に、ユーフェリアは微笑む。

「大丈夫。あなたならきっと——信じていますあなたを——」

刹那、彼女の視界は暗転した。

プロローグ（後書き）

なんていうか、中途半端な始まりです。

ノクティス

長い時間、暗闇をさまよったような気もするし、一瞬だったような気もする。

彼女は眩しい光に目を覚ました。

（ええっと……私どうしたんだっけ？……そうだ、私死んだんだ。いや、植物状態になったって女神様が……植物状態？女神様？あれ、夢？）

眩しい光を遮るように腕で覆った両目を開け、彼女は身体を起こした。

自分は夢を見ていたのだろうか？

（草？）

上半身を起こし、手を着いた場所を見て彼女は首を傾ける。
どうやら自分が寝ていたのは、柔らかい芝生のような場所だ。見回した周囲は自然の物ではない人工的に手を入れられた庭園のよう

だ。

「綺麗……………」

整然と整えられた木々、色とりどりに植えられた花々、何処までも青い空。ポツリとつぶやいてその柔らかな景色を眺める彼女に、ふと影がさした。

『なるほど、大きな空間の歪み正体は君か……………』
「!？」

かけられた声に彼女は思わず肩を揺らし、恐る恐る

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9970y/>

睡蓮の花

2011年12月3日16時54分発行